

RCHR 第136回サロンの人権

話題提供:堀 あきこ

(大学非常勤講師 (大阪電気通信大学など)、シェアハウス運営)

差別を描くジレンマ

『彼らが本気で編むときは、』

における身体と母性

無料

11月15日(水)

午後3:00~5:00

人権問題研究センター
共同研究室お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035
otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp

2017年2月に封切られた映画『彼らが本気で編むときは、』(荻上直子監督)は、トランスジェンダー女性を中心に、様々な形の家族を描いた作品である。LGBTへの差別を問うテーマは、感動を持って観客に受け入れられた。しかし、その一方で、トランス女性から「差別的作品だ」という批判があがっている。トランスジェンダーへの差別を告発する目的の作品が、当事者から差別だと批判を受けることを「差別を描くことのジレンマ」という視点で検討する。